

第1回

JAあいち豊田 農業川柳

応募総数
396句

テーマ 食や農への想い

結果発表

審査員 重徳 光州 先生
1939年生まれ、豊田市今町在住。定年後、本格的に川柳の世界に入り、全日本川柳協会主催の国民文化祭で選者も務める。名古屋香楽川柳副会長、香楽川柳本社幹事、愛知川柳作家协会委員、ほうなん川柳講師。

最優秀賞



豊田市秋葉町
ペンネーム
黄昏迫子さん

トマトが苦手だったのに、主人が作ったとれたてで新鮮なトマトを食べておいささにびっくりしました。とれたての野菜を食べられるのは何よりもぜいたくです。

とれたての
味に勝れる
シエフはなし

講評

家庭菜園のキャベツは口に入れると、甘い香りが口いっぱい広がる。とんかつの添え物に絶品だ。産直プラザで買った大根は薄味のおでんの中で主役を占める。新鮮野菜を料理する妻は夕飯の支度が楽しみだ。それを覗き見て夫は今日の晩酌の酒を選んでくれる。和やかで、爽やかな家庭をとれたての味が演出してくれるのだ。

優秀賞



豊田市東大島町
ペンネーム: きりんさん

産直売場で農家さんの名前や顔を見ると田舎の両親が野菜を作る情景が浮かび、安心して買うことができます。

安心は
あなたの顔が
見えるから

講評

道の駅や産直売場では、農家の名前と顔写真を添えた野菜を売っている。そうか、この人の農作物か。それを知ると、途端に親しみが湧く。きつと種の選定や保存から、肥料や土寄せ作業の二つに心を配り、手塩にかけて育てた野菜だ。もちろん、農薬散布も最小限に抑えているに相違ない。そんな誇らしげな顔に見えてくる。

優秀賞



豊田市中田町
荒賀 稔子さん

私は家の敷地内で家庭菜園を楽しんでいます。「農の未来と家族の暖かさ」に思いを寄せ、若い家族の農への参加に期待を込めて詠みました。

ジーンズも
もんぺも似合う
うちの嫁

講評

明るく、快活なお嫁さん。地域の集会でも、学校行事でも、率先して活躍する人気者だ。そして、ひとたび田畑に入ると働き者で、仕事のはかどりも人一倍だ。その様子を姑は自慢げに目を細めて眺めている。いい嫁をもらったなあ、息子を褒めてやる。一家だんなの様子が見えよう。

佳作

みそ汁の 中味がかわり 四季を知り

豊田市中川手町
安藤重一さん

野菜畑 老いた二人の 晴れ舞台

豊田市小坂町
安藤君衛さん

流す汗 肥しとなって 実る秋

みよし市三好町
秋松成喜さん

AIに なんぞ譲れぬ 土いじり

豊田市中川町
ペンネーム 果物好きさん

千の手塩に 万の実りの 恩返し

豊田市青木町
塩谷美穂子さん

朝市で 顔と名前と 味を知り

豊田市浄水町
ペンネームとよちゃんさん

初スイカ まるで我が子を 抱くように

豊田市明和町
ペンネーム ももつ子さん

採れたてよ 聞くと自然に 笑みこぼれ

みよし市福谷町
ペンネームねこべんさん

土寄せは 赤子に布団 掛けるよに

豊田市堤町
ペンネームてるばあさん

一坪の 畑の中に 小世界

名古屋市長白区
ペンネーム コロちゃんさん

たくさんのご応募ありがとうございました。
入賞作品はJAホームページでも紹介しています。

先生より総評

初めての試みという川柳募集に多数の応募があったこと、心から喜んでいきます。皆さんの農業に対する思い、農作物に対する愛情。そして、農作業を共にする家族の絆など、微笑ましい句、楽しい句を堪能させて頂きました。数に制限があるので、残念ながら入選に至らなかったものの中にも佳句が沢山ありました。選評は作者の想いに加え、私なりの深読みをしました。深読みできること自体、優秀句たるゆえんのことと思います。
川柳は喜怒哀楽を率直に表現する心の詩です。これからも、五七五のリズムに乗せて、楽しく、おおらかに詠み続けて下さい。機会を見つけて、新聞雑誌への投句や川柳会への入会など、川柳を嗜んで頂きたいと思えます。